

## サタンの霊か 神の霊か？

ジョー・クルーズ

### 律法に違反させようとする策略

最終時代のしるしの一つとして、聖書は、霊的で悪魔的な勢力の盛り上がりを示しています。サタンは最後の総力をあげて闘おうとしています。この戦いにおいて、すべての人の運命が決定されるでしょう。神とサタンはハルマゲドンの決戦で対戦します。そして善と悪の長年の闘いに永遠の決着がつくのです。

聖書によると、サタンは全世界を欺いて自分の味方に引き入れるために、人間の心に訴える巧妙な策略を通して熱心に働きます。ヨハネは次のように述べました。「悪魔が、自分の時間が短いを知り、激しい怒りをもって、…下ってきたからである」(黙示録 12:12)。彼は、この対戦の準備のために6000年以上にわたって計画してきました。そして政治的、宗教的勢力の両方を巧みに操るでしょう。その基礎を敷くために、幾世紀もかけて偽物の思想や教理を開発してきました。サタンはその天才的な能力を用いて、人々が救われないようにするための戦略を開発します。罪は人を天から締め出す唯一の理由ですから、サタンの究極の目標は人々に罪を犯させることです。

聖書は罪を「不法(法に違反すること)」と定義しています(1ヨハネ 3:4)。パウロは、罪を構成するのは十戒を破ることであると更にくわしく説明しています(ローマ 7:7)。ですから最後の闘いの焦点は、神の道德律への服従に関するものになっても、少しも不思議ではありません。サタンは天の政府とその律法を軽蔑しています。彼は昔、神の要求は過剰だと非難して、天使たちとの平和を破りました。彼は、神が守ることの出来ない律法への服従を要求する不公平な神であると訴えました。その時以来、彼は、人間に律法を犯させて自分の訴えを真実なものにしようと試みました。悪魔は、キリストを信じない人々のことは、問題視しておりません。しかし彼はいかにして、あらゆる大きな宗教団体を不服従へと結束させることが出来るのでしょうか。

最後の欺瞞のためのサタンの壮大な計画は、あらゆる人々が、そして宗教界でさえも、天の権威に背くように導くことです。当然、この企ては、クリスチャンが胸中に何らわだかまりもなく律法を犯せるように、またキリストの名において広められるように、そしてまた宗派や信条のあらゆる境界を越えて作用するように、考案されなければなりません。ともかく、計画は、聖書を信仰に関しての最高の権威とする伝統的な考えを廃止させるものでなければなりません。そして立派なクリスチャン像を保ちつつも別の権威を確立するものでなければなりません。あらゆる諸教会を包含するためには、計画は、教理、預言の解釈、あるいは生活の標準には触れないところでなされなければなりません。こういう事柄は分裂と意見の相違を生み出すだけですから。

サタンは、キリスト教界を神の律法への不服従につなぎおくという目標のために、以下の4つの基本要件を満たす必要がありました。

1. クリスマンが律法を破っても安心感を覚えさせる。
2. 神のみ言葉は真理の厳密な吟味の基準であると考えさせないようにする。
3. み言葉以外に、本物で魅力的に思われる別の吟味の基準を制定する。
4. あらゆる教理、預言の解釈、そしてクリスマンの標準は分裂を起こさせるので、省く。

クリスマンたちがこぞって十戒に背くようにさせるために、これらの要件のすべてが、遠大な策略に組み込まれなければならないのです。

### 奇跡を働く者たちは神に属する者か？

それでは、終わりの時代にこれらの状況がどの様にして起こるかの描写を聖書に学んでみましょう。偽造者サタンの信じられないほどの欺瞞的な力は、これらすべての目標を達成するでしょう。

まず、多くの者が宗教の名において、いかに軽率にも神の律法に背くかを、イエスの言葉から見てみましょう。「わたしにむかって『主よ、主よ』と言う者が、みな天国にはいるのではなく、ただ、天にいますわが父の御旨を行う者だけが、はいるのである。その日には、多くの者が、わたしにむかって『主よ、主よ、わたしたちはあなたの名によって預言したではありませんか。また、あなたの名によって悪霊を追い出し、あなたの名によって多くの力あるわざを行ったではありませんか』と言うであろう。そのとき、わたしは彼らにはっきり、こう言おう、『あなたがたを全く知らない。不法を働く者どもよ、行ってしまえ』」(マタイ 7:21-23)。

主のこの警告の言葉の重要性をご理解下さい。これらの人々は、クリスマンであると声を大にして主張しました。彼らは、預言をしたり、悪霊を追い出したりさえして、驚くべき力を行使しました。彼らはこれらの奇跡をイエスの名によって行いました。しかし、イエスは彼らを知らないと言われました。つまり、彼らは一見イエスの力によって霊の賜物を行使していたようですが、そうではありませんでした。では、一体誰が彼らにそのような奇跡を行うための超自然的な力を与えたのでしょうか？そのような力の源は二つしかありません。神か、サタンかです。イエスは彼らを「不法を働く者ども」と呼んでおられたので、彼らは、不法の創始者サタンの力によって癒したり預言したりしていたこととなります。

イエスのこの言葉は、最終時代には、偽物の霊の賜物が現れることを立証しています。外見上は、これらの賜物は、本物の賜物にそっくりに見え、また宗教的熱意の雰囲気の中で、イエスの名によって行われています。本物と偽物をどのようにして見分けることができるのでしょうか？イエスはこ

の問題をはっきりさせてくださいました。彼らは、「主よ、主よ、」と叫んでも、天にいます父の御心を行っていません。神の御心とは何でしょうか。ダビデは答えます。「わが神よ、わたしはみこころを行うことを喜びます。あなたのおきてはわたしの心のうちにあります」(詩編 40:8)。この人々は、自分の多くの力ある奇跡に基づいて、イエスに懇願しましたが、神の律法を破っていたので、サタンの働く者として彼に拒まれました。彼らは実際にはイエスを知りませんでした。なぜならイエスを知ると言うことは、彼の戒めに従うことだからです。

「もし、わたしたちが彼の戒めを守るならば、それによって彼を知っていることを悟るのである。『彼を知っている』と言いながら、その戒めを守らない者は、偽り者であって、真理はその人のうちにはない」(1ヨハネ 2:3, 4)。彼らはイエスを愛してもいませんでした。なぜならイエスを愛するとも、彼の戒めを守ることだからです。

「神を愛するとは、すなわち、その戒めを守ることである。そして、その戒めはむずかしいものではない」(1ヨハネ 5:3)。

### 服従する者だけが聖霊に満たされる者である

服従に関してもう一つの大真理がある。聖霊に満たされることが出来る者はただ、服従する者だけです。これは、霊の賜物は、神の律法を破る者の生活の中では表されることはないという意味です。「もしあなたがたがわたしを愛するならば、わたしのいましめを守るべきである。わたしは父にお願いしよう。そうすれば、父は別に助け主を送って、いつまでもあなたがたと共におらせて下さるであろう」(ヨハネ 14:15, 16)。

この聖句の中に順序がはっきりと示されています。愛は服従へと導きます。そして服従は聖霊の満たしへと導きます。服従と聖霊のバプテスマとの間の関係を見落とすべきではありません。聖霊の最も基本的な働きは、あらゆる真理に導いてくださること、また罪を自覚させてくださることです。

「しかし、助け主、すなわち、父がわたしの名によってつかわされる聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、またわたしが話しておいたことを、ことごとく思い起させるであろう。」(ヨハネ 14:26)。

更にイエスは次のように言われました。「けれども真理の御霊が来る時には、あなたがたをあらゆる真理に導いてくれるであろう。…」(ヨハネ 16:13)。

聖霊が私たちを導いてくださるところの「あらゆる真理」や「すべてのこと」には何が含まれているのでしょうか。安息日もそれに含まれるでしょう。そして他の 9 条もそれに含まれるでしょう。しかし実

際には、聖霊の最初の働きは、罪を自覚させることです。キリストは聖霊の働きを次のように説明されました。「それがきたら、罪と義とさばきについて、世の人の目を開くであろう」(ヨハネ 16:8)。

罪とは何でしょうか？「…罪は不法である」(1 ヨハネ 3:4)。明らかに人は、聖霊で満たされると、律法を犯したことを自覚させられることは避けられません。嘘、盗み、姦淫、安息日を破ることは、聖霊に満たされた生活の中にとどまることは出来ません。これらの罪を故意に行うことは、聖霊の働きを効果的に妨げます。故意の罪と霊の賜物は、ちょうど神とサタンのように互いに相いれないものなのです。事実、イエスは聖霊に背くことはゆるされない罪へ至らせるという驚くべき真理を教えてくださいました。

「だから、あなたがたに言うておく。人には、その犯すすべての罪も神を汚す言葉も、ゆるされる。しかし、聖霊を汚す言葉は、ゆるされることはない。また人の子に対して言い逆らう者は、ゆるされるであろう。しかし、聖霊に対して言い逆らう者は、この世でも、きたるべき世でも、ゆるされることはない」(マタイ 12:31, 32)。

人が犯せる最大の過ちは、聖霊が神の律法への服従に導こうとする時、導き、罪を自覚させる聖霊の影響力を拒むことです。

ルカが靈感によって書いたときに原則は永遠に据えられました。「わたしたちはこれらの事の証人である。神がご自身に従う者に賜った聖霊もまた、その証人である」(使徒 5:32)。

このように、奇跡を行う者たちがイエスによって「不法を働く者ども」として追い払われた理由を、はっきりと知ることができます。彼らは、父の御旨、すなわち律法を拒んで、聖霊の力へ近づく手段を失います。その時点でサタンが入ってきて、力の供給を継続し、見かけは聖霊が起こすのと同じような奇跡を起こします。

自称クリスチャンたちは、致命的な盲目状態へ誘い込まれて、不服従を自覚させる聖霊を深く悲しませませす。そして神の聖なる律法の違反に対する感受性が鈍くなります。サタンの霊の興奮させる感情的な刺激の下、彼らは、神のみ言葉の権威よりもむしろ感覚に基礎を置いて、偽物の宗教的力を働かせ続けます。イエスは、[マタイ 7:22](#) で、終わりの時代には、聖霊の力によって奇跡を働くと主張しながら、実際には悪魔によって操られるという現象が、キリスト教界に生じるとお教えになったのでした。

## 今日の驚くべき成就

今日そのような人々はいるのでしょくか。そして彼らは、キリスト教界を不服従へといざなう大規模な計画のための4つの基本要件を満たしているでしょうか。この質問について述べるために、最近

私が頼まれた聖書研究のグループでの経験をお話しさせていただきます。この集まりは 6 人で構成されていました。3 人のビジネスマンとその奥様たちです。毎週木曜日の夜、聖書の偉大な教理を探究する学びをしばらく続けました。

一連の学びは、あらゆる点で他とは異なっていました。まず初めに、この 3 組のご夫婦は非常に献身的なクリスチャンでした。研究の途中たびたび、彼らは、キリストとの愛の経験についてとても熱心な証しをしてくださいました。彼らがイエスとの個人的な関係についての感情的な印象をお持ちである事は非常に明白でした。

2 番目に他とは異なっていたことは、彼らの熱心さと真理が開かれるにつれてそれを直ちに受け入れる態度でした。安息日、死後の状態、そして清くない食物などの主題が探究されるにつれ、彼らは心から受け入れて下さいました。幾度となく、その論点の明快さに声を上げていました。そしてなぜ今までこれらの事を見ることが出来なかったのか、大いに不思議がっていました。

聖書研究の最後の晩に、私はこのグループに安息日を守り始めることを勧めました。驚いたことに、彼らのうち誰も、自分が快く信じているその真理に、少しでも従う気持ちのある者はいませんでした。彼らがなぜ安息日を守るつもりがないかの理由を説明し始めたとき、私は更に困惑を覚えました。「私たちは聖霊のバプテスマを受けました。そして聖霊は私たちが成すべき事をすべて告げて下さいます」。彼らは説明を続けました。「聖霊は私たちに安息日を守るように告げていません。もし告げて下さるなら、私たちは喜んで行いたいと思います。私たちはそれが聖書にあることは知っています。そしてそれを信じています。しかし私たちがそれを行うためには、聖霊は私たちにそれを守るように告げなければなりません」。私は、聖霊はすでにみ言葉を通して彼らに語られたこと、そして聖霊が彼らに別の事を語ることによって、ご自身と矛盾することはないことを示しましたが、無駄でした。

パウロは、神のみ言葉は「御霊の剣」とであると**エペソ 6:17** で述べました。これは、聖書は聖霊の罪を自覚させる働き鋭い刃であるという意味です。誰も、聖句が無ければ真理の内に導かれることは出来ません。しかしこの人々は、主イエスご自身のみ名によって、聖書の権威を放棄し、感情的な印象を支持したのでした。実際に彼らは、神のみ言葉よりも更に有効だと思われる、真理を吟味する別の基準を定めていました。しかし彼らは、イエスの名において行動しておきながら、神の律法に違反しても安心感を覚えさせる別の霊に耳を傾けていたのでした。彼らは、キリストへの大きな愛を明言しながら、直接的な啓示を擁護しました。その啓示こそが、生活の中での神の特別な現れの証拠だということです。

何と説明したら良かったのでしょうか。彼らは、悲しそうに、そして気の毒そうに私を見つめました。なぜなら私が、彼らの経験を特徴づけていた恍惚とした平和と喜びを受け入れることに賛成していなかったからです。突然私は、これが**マタイ 7:21-23** でイエスが説明した事と全く同じ事の再演であったことに気が付きました。この人々は、彼らの力は神から来ていると本当に信じていました。彼ら

は「主よ、主よ、」と言いながら、神の御旨を行わない者たちでした。彼らが有すると主張した霊の賜物はみな、イエスのもとに来た人々が有していた賜物とよく似ていました。悪霊を追い出すこと、預言、いやし、奇跡などです。イエスは、最後の時に「多くの者」が来てまさにこうした言葉を語ると言われました。今日、この部類に入る人は多いでしょうか。

今日、国中で、無数の人々が、宗派の壁を越えた運動に引き付けられています。カトリック教会もプロテスタント教会も同様に、共通の霊によって動かされている興奮させる現象に夢中になっています。彼らは、聖霊が魂の新しい言葉を授けていると信じ、またいやし、悪霊を追い出し、そして預言をするために、神の力が彼らを用いていると信じています。

キリストの警告の光のうちに、私たちは本当の賜物と偽物とをどのように見分けるのでしょうか。奇跡がサタンの力によって行われていないと、どのようにして確信出来るのでしょうか。偽物を見分けることの出来る唯一の方法があります。それは、もし神のすべての律法に従っていなければ、それは偽物だと分かるのです。イエスは、最終時代の偽預言者の「大いなるしるしと奇跡」は非常に人を惑わせるもので、「選民」でさえも圧倒されそうになると警告されました(マタイ 24:24)。ヨハネは、「しるしを行う悪霊の霊」が、「全世界の王たちのところに行」くのを見ました(黙示録 16:14)。

このサタンの活動についての霊的な暗示を見落としてはなりません。奇跡は宗教的な背景の内になされます。この終わりの時代の悪霊は、キリストの名によって、真理の奉仕者を装って教会の姿を通して働くでしょう。パウロは実際、「サタンの手下どもが、義の奉仕者のように擬装」と述べました(2コリント 11:15)。更に彼はテサロニケ人へ手紙を書くにあたって、偽使徒の働きは「あらゆる偽りの力と、しるしと、不思議と、また、あらゆる不義の惑わし…」が伴うものであると説明しました(2テサロニケ 2:9, 10)。

終わりには、悪魔が真の霊の力の現れに本物そっくりに真似るので、教会を含めて、世界は悪魔によって操られます。聖書によると、愛の心から神のすべての律法に従う者だけが、惑わしから守られます。

残念ながら私たちは目を見張らせるほどの奇妙な時代に生きています。いやし、奇跡的な異言、あるいは悪霊を追い出す事などの約束に人々は夢中になっています。神からの力か、それともサタンからの力かを立ち止まって尋ねる者はほとんどいません。ほとんどの者は、偽物の奇跡についての靈感による預言を知らず、また偽物から本物を見分ける方法も知りません。無数の人々は、イエスの名によって、明らかな力で、説教し祈る者たちの誠実さに感銘を受けて、それは神からのものであるに違いないと「感じる」のです。彼らの感情的な恍惚状態は、すぐに御言葉による真のテストよりも高められます。

私は、カリスマ派の聖書研究グループの方々と交わりを持っていたとき、サタンが教界を自分の味方に引き入れるために要求する 4 つの要件すべてが彼らに一致していたことに気が付きました。

彼らは律法を破っても安心感を覚えました。彼らは、神のみ言葉を真理の最終的な吟味の基準として受け入れませんでした。彼らは別の吟味の基準を定めました。それは、自分の宗教的な印象です。これを神が自分を受け入れていることの証拠としました。彼らはまた、霊の奇跡の賜物を神の是認として見なしました。最後に、彼らは、一緒に学んだ素晴らしい教理的そして預言的真理を無視しました。彼らは、自分たちのカリスマ的な「経験」に比較すると、それらの真理を付随的で重要でないこととして見なしました。

カトリック教会、バプテスト教会、ペンテコステ教会、監督教会は、「聖霊」の一致を保つためなら、聖書的確信や教派的な立場を喜んで捨てます。しかしマリヤ礼拝をする者、安息日を破る者、死人と交信する者を通して働く霊とはどちらの霊でしょうか。聖霊ではないことは間違いありません。聖霊は、「ご自身に従う者」にのみ賜ります(使徒 5:32)。

## 異言に関して

このセクションは省略いたします。詳しくは別紙「聖書の異言」をご参照ください。

## バプテスマの目的

聖霊のバプテスマに関する最も重要な真理は、たびたび見落とされてしまいます。そしてこれはその経験の目的と関係があります。多くの者は、それを個人的な恍惚状態、楽しい感情、あるいは内部の霊的幸福という点から定義しています。これらの事はどれも、約束された聖霊の注ぎの基本的な理由とほとんど関係がありません。これらのあるものは、その御霊の実に含まれるかもしれませんが、バプテスマそのものと勘違いをすべきではありません。キリストは昇天される直前に弟子たちに、聖霊が「間もなく」(使徒 1:5)彼らの上に来るまでは、エルサレムにとどまるようにお告げになりました。

それからイエスは次のように言われました。「ただ、聖霊があなたがたにくる時、あなたがたは力を受けて、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、さらに地のはてまで、わたしの証人となるであろう」(使徒 1:8)。キリストはこの約束で、聖霊が他の人々へ奉仕する力を与えるということを強調なさいました。

(一部省略—異言にかんする内容、詳しくは別紙「聖書の異言」をご参照ください。)

最後の時代のこの異言の現象は、二つの大きな理由で聖書の真理の基準を満たしません。第一に、聖霊のバプテスマは神の戒めのすべての点に従わない者たちには与えられません。第二に、異言の賜物の真の目的は、教会の徳を高め、不信者を彼らの言語で教えるためであって、近代の「異言」の運動に見られる訳の分からない言葉によって果たされるものではありません。私たち

は、その現象が偽物のすべての要件を満たすことを見出しました。その偽物によって、サタンは無数の者が神の聖なる律法を犯すように導きます。非常に多くの誠実なクリスチャンが、神の霊と神の律法を犯しても神に認められるということを信じています。人間の火は、神の火と間違われています。そして世界は、安息日の遵守の論点が善と悪との闘いのクライマックスを迎える時、間違った選択をするように準備されています。御言葉だけが私たちの間違いのない指針として信頼することによって、そのような誤りから救われますように。